

授業科目	* 薬理学				単位	2		
履 修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU11110J		
開講年次	2	開講時期	前期	該当DP	DP1-2 DP2-1			
担当教員	東 泉							
授業概要	薬理学は、薬物と生体がどのように作用しあうのかを学ぶ学問である。総論では、薬物の作用の仕方(作用機序)、薬物と有害作用、薬物の効果に影響する要因などについて学ぶ。各論では、代表的な薬について、その薬物とその疾患に対しなぜ効くのか、またどのような有害作用があるのかを理解し、医薬品の適正使用のための知識を身につける。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の種類について理解し、適切な取り扱いについて説明できる。 2. 薬理学の基本用語を習得し、医薬品添付文書の内容が理解できる。 3. 薬物療法における薬物動態を説明できる。 4. 薬効に影響する要因について説明できる。 5. 主な薬物の作用機序、薬理作用、有害作用を説明できる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	75	25	0	0	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)	65	25	0	0	0	0	90	
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)	10						10	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
標準的なレベルを習得したうえで、総論の内容を充分理解し、説明できる。各論では、代表的な医薬品について看護師として必要な知識を充分身に付け、説明ができる。				総論の基本的内容を理解し、説明することができる。各論では、看護師として必要な基本的な医薬品の知識を習得する。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	テーマ:薬理学総論 1 薬理学の概説をする。			講義		復習:該当箇所の復習		30

	薬物の作用機序と薬物受容体について解説する。	必要に応じてスライド、資料を使用		
2	テーマ: 薬理学総論 2 薬物の生体内運命について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習・復習	30
3	テーマ: 薬理学総論 3 薬効に影響を与える要因について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習・復習	30
4	テーマ: 薬理学総論 4 薬物の有害作用、相互作用について学習する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習・復習	30
5	テーマ: 薬理学総論 5 医薬品に関する法律や医薬品の適切な取り扱いについて解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、総論全体の復習	30
6	テーマ: 末梢神経作用薬 自律神経系(交感神経、副交感神経)に作用する薬物について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	50
7	テーマ: 中枢神経作用薬 1 全身麻酔薬、催眠薬、抗不安薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	30
8	テーマ: 中枢神経作用薬 2 抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗うつ薬、抗精神病薬、麻薬性鎮痛薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	30
9	テーマ: 循環器作用薬 高血圧症、不整脈、心不全、狭心症の治療薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	30
10	テーマ: 血液系作用薬 抗血液凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬、止血薬、貧血治療薬などについて解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	30
11	テーマ: 抗アレルギー薬、抗炎症薬 抗アレルギー薬、抗炎症薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	30
12	テーマ: 呼吸器系・消化器系作用薬 気管支喘息、消化性潰瘍の治療薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	30
13	テーマ: 内分泌系作用薬 糖尿病治療薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	30
14	テーマ: 抗感染症薬 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	予習・復習: 該当箇所の予習、復習	30
15	テーマ: 抗がん薬、免疫治療薬、総括 抗悪性腫瘍薬、免疫抑制薬について解説する。	講義 必要に応じてスライド、資料を使用	復習: これまで学習した内容の総復習	90
16				
17				
18				
19				
20				
21				

22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	生化学、生理学、とくに病態生理学について復習していると、講義が理解しやすい。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 第15版(吉岡 充弘 他著、医学書院)			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学(医学書院) 治療薬マニュアル 2023(医学書院) 薬がみえる(medicmedia)			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	医薬品に関する様々なニュース等に関心を持つようにする。			
達成度評価に関するコメント/課題に対するフィードバックの方法	期末試験: 講義中に行う小テスト=75:25 により評価する。詳細は講義中に説明する。			

